

# 林大だより



第 83 号 令和 4 年 3 月 15 日

長野県林業大学校 卒業式 会



令和 3 年度 卒 業 式

卒業おめでとう

要検会 会長 古畑 邦昭



早いもので、あっという間に二年が過ぎ、卒業となりました。この二年間は新型コロナウイルスに振りまわされた日々が続きました。林業大学校は、全国の地域から学生が集まり、全寮制という特色もあり、心配された保護者が多かったと思います。無事に卒業となり、校長先生を始め、先生方、事務の方々等、関係者の皆様には本当に感謝しております。

二年間を振り返るとオーストリア研修は行けませんでしたが、屋久島研修や各実習等、限られた時間の中で様々な経験が出来たことは本当に良かったと思います。人との出会いや社会との関りの中で人生はどのように左右されるかわかりません。先生に紹介

されて行ったインターンシップが就職に繋がるとは思いもしていませんでした。林業大学校での、先生や学生との出会いもそのひとつだと思えます。人との関わりが大切なことを親子で実感した二年間で、楽しいこと、嬉しいこと、嫌なことをたくさん経験して成長させて貰った二年間で、保護者会の役員と保護者会長も経験させていただきましたが学校運営の難しさも肌で感じる事が出来ました。至らない点ばかりだったことをご容赦ください。

林大での二年間は、全寮制という他では味わえない経験から団体生活での協調性や人を思いやる心を育てて貰いました。来年度からは、寮も建て替えられて新たなスタートとなります。今後も特色を活かした林大となるように期待しています。

林大に入学して二年間、親子共々、関わっていただいた皆さんに本当に感謝です。ありがとうございました。学生

もこの二年間を大切に今後の生活に役立ててください。終わりに保護者会長として役目が果たせたのかどうかかわかりませんが、無事に卒業出来る

ことをうれしく思います。これからの長野県林業大学校が発展することを願い皆で応援していきたいと思えます。

年頭にあたり

長野県林業大学校 校長 丸山 勝規



このように仕事では「結」を大切にしてきたつもりですが、自分にとって一番近く

の「周囲の人」である家族と心を通じているものだと勝手に思い込み、「結」を御座りなことに昨年気が付かされました。考えてみれば、妻や子どもも人格を持つ独立した人間です。相手に向き合い言葉や態度を通じて理解し合うことが必要です。妻や子どもに対して放任主義で、家族の悩みに真摯に向き合っ

てこなかった。このようなことを前々から妻に言われていました。自分では意識していませんでしたが、妻に言わせると聞く耳なしという態度だったようです。このような状況下で一昨年原因不明の体調不良になりました。体調を気遣ってアドバイスしてくれる妻の言うことを以前とは違って少しずつ聴けるようになり、体調も徐々に回復してきました。この経験により家族に支えられて「自分」は在るのだと、ようやく気付きました。

おみくじはさらに続きます。「今ある人間関係があなたでは生きられない。一人では生きられない。それを知るだけでも人生は大きく変わるものです」。年頭にあたり、林大生・保護者の皆様、先生方や友人、家族らと豊かな人間関係を作り、自分の人生を変えていきたいと強く思います。本年もよろしくお願ひします。

令和四年一月の授業開始は、新型コロナウイルス感染拡大の中となりました。年末はコロナ終息かというような状況でしたが、新たな変異株のオミクロンが年明けから猛威を振るい始め、長野県も一日当たり感染者数の最高記録を日々更新しているような状況です。感染対策の基本を確実に実施し、年間計画どおりに卒業式を迎えたいと思えます。

さて、私事で恐縮ですが、年の初めに恒例の善光寺で引いたおみくじには、「結」と

林業の転換期、誇りを持って

林務部長 井出 英治



え、そして価値観をも変えま  
した。地方回帰や多様な働き  
方の定着が一気に進み、この  
二年で、自然の中で働きたい  
という林業への求職者が増加  
しています。

二年前、新型コロナウイルス  
の感染拡大により入学式が  
順延となりました。開校四十  
年以上の歴史ある林業大学校  
でも初めての出来事でした。  
それ以来、学生にとっても、  
海外研修の中止といった授業  
への影響をはじめ、寮生活や  
アルバイトの制限など、生活  
への影響も大きかったと思っ  
ます。

特に二年生は、入学から卒  
業まで、見えない恐怖との戦  
いが続く制約の多い二年間と  
なりました。しかし、この間、  
共同生活で身についた規律  
性、協調性、思いやりは、例  
年にも増して皆さんの社会人  
として生きる基礎になること  
でしょう。

さて、新型コロナウイルス  
は、私たちの生活や社会を変

期待はこれからも高まってい  
くでしょう。

県内の森林は先人の努力に  
よって、伐採時期を迎えてい  
ますが、素材生産量はまだま  
だ低い水準に留まっています。  
今後、これを略奪的に利  
用して同じ歴史を繰り返すの  
か、循環的で持続可能な利活  
用に繋げることができると

か、今、その岐路に立ってい  
ると言えます。

持続可能な社会を実現する  
ために、林業に何が求められ  
ているのか、そして、私たち  
に何ができるのか、林業大学  
校の学びと経験を誇りに、若  
い人の感性でこれからの林業  
を切り開いていただくことを  
期待します。

ようこそ木曾へ

木曾山林協会 事務局長 松原 秀幸



くさんある林業大学校の中か  
ら木曾を選んで来ていただき  
ました。二年間、ぜひ木曾の  
ことをよく知ってファンに  
なってください。

林業大学の皆さん、木曾  
山林協会の松原秀幸です。昨  
年、県職員を定年退職し、も  
う少し当地の林業のお手伝い  
をさせていただいています。

私は、平成十五年から六年間、  
林業大学校に職員として勤め  
ました。県職員の生活の中で  
森林林業を学ぶ若い皆さんと  
勉強ができ、毎日、楽しく過  
ごさせていただきました。

学生の皆さんは、全国にた

江戸時代、木曾谷は中山  
道が通りにぎやかな宿場で  
した。中山道六十九次のう  
ち、江戸から数えて三十五番  
目、京都から数えて三十五番  
目のど真ん中は菰原宿です。

福島宿は二つ京都に近い場所  
です。郷土史を学ぶ皆さんと  
話をしている、木曾は豊かで  
あったか話題になります。時  
代劇で見る江戸の町と規模は  
小さいものの木曾の宿場は同  
じもの、小さな消費都市で

あったという指摘が妻籠の郷  
土誌にあります。

もう一つ木曾が豊かな理由  
として木の恵みがあります。

木曾の森林開発は江戸時代に  
なって尾張藩により始まりま  
した。伐採搬出の技術を当初  
は紀州や吉野の人が伝え、木  
曾谷各地の熊野神社や白山神  
社はその人たちが建てたと  
言われます。そして、江戸中期、  
天然林を切り尽くすと、今度  
は木曾の人が山形や群馬へ出  
掛けて林業技術を伝えていま  
す。是非、遠くの学生さんは、  
郷里へ帰って林大で学んだこ  
とを伝えてください。

最後に、卒業すると多くの  
学生さんは木に係る仕事に  
就きます。是非、もっと木  
のことを勉強してください。

ちよつと意地悪な私は、時々  
行く回転すしで、店員さんに  
魚の質問をします。繁盛店の  
店員さんは魚をよく知ってい  
ます。同じように、プロとし  
て木をよく知っている技術者  
になって欲しいと思います。

二年間は社会に出るスタート  
の時、林大の二年間は重要で  
す。充実した林大の生活、そ  
して木曾の暮らしをお過ごし  
ください。

学生のページ

# あすなるの呟

つぶやき

## 学校・寮生活から

### 一年間を振り返って



1学年 上田 皓輝

林業大学校に入学して約一年が経ちました。初めての寮生活や専門的な授業などの不

### 一年を振り返る



1学年 小酒井 啓治

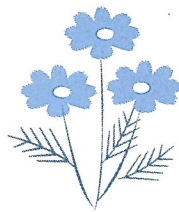
林業大学校に入学して、早くも一年が経ちました。最初は、右も左もわからなかった私も、座学や実習を通して、少しは林業について知ること

安が多くあった一年でした。ですが、日々の生活や勉強がととても楽しく、あつという間の一年でもありました。学習面では、一般科目から専門的な科目や実習まで幅広い学習内容で挫折しそうになりながらも、自分なりに復習などをしてしっかりと自分の知識として取り込むことができました。生活面では、私物の管理をししっかりと行うことの大切

ができました。入学したばかりの私は、山を見ても、綺麗だということくらいしか考えていませんでした。しかし、今ではどのような樹種が生えているのか、どのような作業をしているのか、などを考えるようになり、知識が増えたことを感じます。また、寮生活でも学ぶことは多く、人としても成長できたと思いま

す。こうして一年を振り返ると、自分が意識して学んできたことだけでなく、意識して

さや、自己学習やアルバイトなどを行うためには計画性が必要であるということや学ぶことができずにはいけません。親元を離れ、自分で物事を考えるようになり自立心が成長したと思います。一年生として生活できる期間はもう少ししかないのです。二年生の先輩方の姿をしっかりとみて、学び、先輩になるという自覚を持って残りの期間を生活していきたいと思っています。



いなかったことから学ぶことが多くありました。そして、在学中の時間は非常に大切なものだと思えることができました。

まだ一年、林大で学ぶことができそうですが、その一年はあつという間に過ぎていくと思えます。初心を忘れずに学習に励むこと。また、行動している時間を増やすことで、より濃く、より良い学生生活を送りたいと思います。

### 気分はジェットコースター



1学年 神農 千愛

林大に入学してから、もうすぐ一年が経とうとしています。長いようで短く、学業も生活もとても充実した一年でもありました。入学当初は漠然としていた将来のことも、だんだん明確になってきました。

迷っていた進路にきっかけを与えてくれたのは、林大に入ってきた友達です。唐突に見せられた「馬搬」という文字。こんな林業もあるんだと思っていました。次第にやってみ

いに変わっていききました。友達の協力のもと、北海道で馬搬を行っている人がいると聞いて、冬休みにインターンシップに行ってきました。インターンシップで海外の方が進んでいることを知り、今でも国内でと考えていた進路も、海外まで視野を広げることになりました。まだ迷うところはありますが、四年制大学に編入したいと聞いていた家族は、まるでジェットコースターに乗った気分でしょう。まだまだ心配事ばかりかかりますが、ご了承ください。



1学年 10月 測樹学円盤採取

高校を卒業して林業大学校に入学してから早くも一年が経ちました。はじめての寮とすることもあり、新しい環境での生活に不安はあったものの、明るい同級生に囲ま



1 学年  
高橋 良太

一年間を過ごして

れ、あつという間に一年が過ぎました。この一年間で様々な成長がありました。一番大きかった成長は寮生活による協調性の向上です。寮生活は様々な考えや価値観の人がひとつ屋根の下に暮らしています。相手の気持ちを考えて思いやりや気遣いが一人ひとりが必要です。この経験は社会に出て大いに役立つと思います。また、就職についても考えることや悩むことが増えてきました。ですが、先輩方が近くにいたので気軽に話し

たりすることがあります。歳が近いということもあり、より近い視点で話してもらおうことができるので、とてもありがたいです。二年生になったら就職活動や後輩が入学してきたりして大変ですが、この一年間で学んだことを生かして生活していきたいです。先輩方から教えてもらったことも下の代に伝えていけたら良いと考えています。

そんなストレスまみれの寮生



1 学年 10 月 枝打ち実習



1 学年 11 月 苗畑実習

林大に入学して



1 学年  
柳 一志

長野県林業大学校に入学してやっと一年が経ちます。

入学する前は、四人部屋の寮生活で楽しく充実した日々を過ごせると思っていた。しかし、実際に生活していくなかで、様々な事件が起こりました。乾燥機をまわしてしばらく経って様子を見にいくと見知らぬクロックスが入っていたことがありました。他にも名前を書いて置いておいた食べ物や誰かに食べられていたこともありま

す。活ですが、これから続いていく長い人生のなかでなかなかできない貴重な体験をさせていただいているのではないかと感じます。授業は、信州大学などから先生が来られるので、非常に分かりやすく、充実したものを教えていただいています。残り一年がんばっていきます。

一 学年 二 月  
小型クレーン技能実習



楽しかった林大生活



2学年 倉澤 一熙

私が、林大に入学してからもう二年が経ってしまいました。初めは不安だった林大での生活は二年も経ってしまえば不安だった気持ちを忘れて楽しく、当たり前前の生活になりました。そんな当たり前に感じていた生活もあと少しで終わってしまいました。この文章が林大だよりで発行される頃にはすでに林大での生活は終わっていますね。寂しいです。風呂場で冷水をかけあったこと、ゲームで遊んだこと、いつの間にか意識が飛んでいる座学などなど、何気

なく過ごしてきた日々にあつた出来事が思い出に変わっていきます。良い思い出も悪い思い出も私にとって大切な思い出になりました。私は、この学校に入学できてとてもよかったですと思っています。それは、仲良くしてくれた友達がいる、林大での生活を支えてくれた大人達がいてくれたおかげです。感謝しています。二年間大変お世話になりました。ありがとうございます。

時が経つのはあっという間で、林大の卒業式まで数えられるほどの日数になってしまいました。日々、残り少ない林大生活をしみながら過ごしています。入学したときは、初めての寮生活に不安を感じていましたが、生活していく中でだんだんと慣れていきました。一年目はコロナウィルスの影響で二ヶ月遅れの



2学年 10月 林業機械学

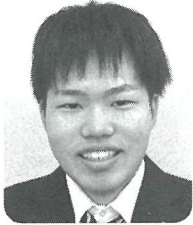
二年間を振り返って



2学年 辰見 隆雅

林大の二年間を振り返って

林大の二年間を振り返って



2学年 古畑 太陽

私たちが入学し、早二年が経ちました。林業大学の生活は、新型コロナウイルスの影響もあり、思うように入学

入学式、行動制限や感染拡大防止のために屋久島研修や御嶽山登山などのイベントが無くなり、とても満足する生活が出来なかつたです。ですが、二年目には屋久島研修、木曾駒ヶ岳登山、寮祭、木曾町駅伝大会、三林大交流授業、近畿研修旅行などのイベントをすることが出来て、すごく楽しかったのを覚えています。就職活動はすごく苦勞しましたが、両親の助言や先生方のサポートもあって、無事に内定をいただくことが出来ました。四月から地元の和歌山を離れて岡山県で新しい生活を迎

がでさず勉強や校外研修が思うようにできなかった、そんな二年間でもありました。しかし、先生方の努力もあり、屋久島研修や近畿研修などといった校外研修に行けたことが思い出に残っています。林大での生活は全寮制ということもあり、楽しいことばかりではありませんでした。先輩に気を使う、自分の時間が欲しいなど思ったことがありました。



2学年 11月 樹木医学実習 (開田高原)

えようとしています。林大で培った知識や経験をフル活用して仕事をしていきたいと思っています。二年間本当にありがとうございました。

そんな中、先輩の背中を見て、勉強に取り組む姿や、人間性を学びました。先輩ができた時には自分もそんな先輩になりたいと思いました。今、先輩から自分が思う先輩に見えているかわかりませんが、林大と一緒に生活したことは思い出になり、楽しかったです。全寮制で勉強や実習に励み、社会人として飛躍することができました。林業大学で楽しく学び、

入学してよかったと今感じています。

### この二年間を 振り返って



2 学年  
柳澤 慧安

林大に入学した当初は寮生活や学業に不安を感じていました。知らない先輩や同級生とうまくやっていけるか、いままでの勉強の取り組みで卒業できるかどうか。そんな言葉が私を不安にさせてきました。が、蓋を開けてみれば怖いことはなく、寮生活の方は、最初、戸惑いがありましたが、徐々に戸惑いがなくなり、先輩や同級生達とコミュニケーションをとり優しく接してくれました。ゆつくりと時間をかけてお互いに慣れていき意見が食い違っていないことを起こすこともありましたが、長い間ともに生活し関係も深まっていますので友好関係を崩すことは一度もありませんでした。



二 学年 一 月  
山の環境学(乗鞍高原)

は、この学校では絶対うまくいかないし最初の試験では追試に引っかかりました。追試に引っかかりましたとき苦しみを覚え、やるべきことはこなさないとダメだと体で痛感することができました。それから追試をとらないように対策をし、よい点数を残したりと達成感も味わうことができました。これは資格の試験も同様、慌てているスケジュールの中で努力を重ね無事に今までの資格を得ることができました。

息子の進学希望を聞いたときは衝撃的でした。親の考える進路とかけ離れていたことだけでなく、今の通常生活の中では考えも至らない「林業」を学ぶということ。それを自分で探し行動に移そうとしていたことに親ながら衝撃と感銘を受けたことを思い出します。とりあえず進学すべきと具体的なビジョンを教示出来なかったことを恥ずかしいとすら思われました。



1 学年 10 月 治山工学

我が家では子ども達にゲームを与えず遊びは専ら外遊び。幼少のころから釣りや登山、長距離ウォーキングなど私の遊びに嫌な顔もせずついてきました。強く人見知り

保護者のページ

# 松

# の

# 一

# 言

### 自分の進む道

大島 浩



については本人に大きな影響を与えたでしょう。横浜にはない大自然を体感し山小屋に宿泊することで非日常を経験したことが今回の「林業」を学びたいということにつながったのではないかと思います。

自分の思い描いたものとは違うところもあるかもしれないが、自分の体感してきた自然を維持し活用していくために大いに学んで欲しいという思いと、自分で決めた道の延長線上で経験・知識を生かせる職業を見つけられるよう願っております。

### 好きなことに 取り組む息子

酒井 千恵子



昨年四月に入学し、早くも一年が経とうとしています。思い返せば、息子は物心がついたころから自然に興味を示していたことを記憶しています。

自然の中でも林業という職に絞ったのは、高校三年生の夏でした。それまでの息子は、中学校、高校と野球に大変夢中になれること、自分の本当に好きなことを見つけると、とことんそのことを探求し、力を注ぐ子でした。そんな息子が高校野球引退後、興味を示し、次の目標へと掲げたのがこの林業でした。

りをする子でしたので、親元を離れ寮生活をするという点がとても心配でした。

しかし、入学してすぐにもこのような心配は消え去りました。息子の口から出る言葉は、いつも活き活きとしており、

### 息子の将来

征矢野 昌吾



息子が中三の進路を決める際、木曾青峰高校森林環境科に進学するという相談を受けました。その際は、息子に将来何になりたいか問い、息子は建設関係の職に就きたいと言いました。自分も同高（山林高校）の卒業生として「将来の道筋が専門職になるぞ！」と伝えました。高校三年間では、森林関係の勉強に勤しみ、卒業後の進路はどのように進むかが楽しみでした。すると林業大学校と他校のどちらかに進みたいという

親としてそんな息子の姿を見られることが何よりも嬉しく感じるとともに、心配が消え去った今、好きなことに進もうとしている息子を親として温かく見守っていかうと思えます。

相談を受けました。色々検討した結果、貴校に進学することになりました。自宅から近いとはいえ親元を離れて寮生活になるのが、寂しく感じました。しかし親の心配をよそに、楽しく学校生活を過ごしているようでとても安心しました。今後一生出来ないような寮生活に感謝し、自分のスキルアップのために学業に勤しみ、将来のために邁進して行ってほしいです。残り少ない一年間をお世話になった先生や在学生、地域の方々へ感謝しながら過ごしてください。

### 林大に感謝

藁谷 道宏



私は父とともに林業を営んでおり、娘は小学生の頃から「私も将来は山仕事をしたい」と言ってくれていました。娘はその意思を持ち続けて、高校で森林について学び始め、

縁があつて林大に今年度から通わせていただいています。娘は帰省すると、林大で学んだことについていつも楽しそうに話してくれます。私自身にとつても興味深い話が多く、最近では、家族でそれぞれの知識を持ち寄って、林業について話すこともありま

す。林大での学びや生活を通して、娘が林業に携わることへの自信と誇りまでも日々高めていると感じられて、私としても嬉しい限りです。

早いもので、娘が林大にお世話になるのも残り一年ほどとなりました。伝統がありつ

つ、最先端の知識や技術を得られる林大で、今後も精一杯学んでほしいと思います。



1 学年 伐倒チーム

### 林大生活を謳歌せよ

野本 宏一



希望に満ち溢れた入学式、友達と学んだ成果の発表をした木望祭、仲間と繋いだ駅伝大会。木曾に行つて行事を見させていただきました。自宅

に帰ってきた時に林業について親子の会話ができて子どもの成長を実感しています。学校、講師、先生に感謝申し上げます。

斧で伐採をしていた時代から鋸、チェーンソー、ハーベスターと進化し、今では普通の事ですがそれぞれが現れた時には驚きの事でした。それと同じように今、林業イノベーションを推進し林業現場に導入する真ただ中でありま

す。活用できる人材が必要です。最先端技術を身に付けて地域社会、企業が必要とする

人になってください。

木材は建築、家具用、紙になるパルプ用からバイオマス発電用のチップ材と用途も広がり、山にお金が返せる時代になりました。また脱炭素社会に森林の役割も重要です。日本の森林は有史以来の最大の貯蓄量と言われているなかではあるが、森林管理にはまだまだ人手不足。

仲間と試行錯誤を繰り返してこれからの林業を背負っていく人になってください。







2学年 10月 林業架線学(運転)

高校三年生の時、森林組合に就職したいと聞いた時は驚きました。高校で学ぶ技術と実際に仕事で行う専門技術とは、全く違うと思っていました、不安もありました。組合の方から林大に通わせて頂き、多くの基礎的知識と技術



大きな成長  
奥谷 晃子



2学年 2月 そば打ち体験

を学ばせて頂きました。寮生活を通して多くの友達もでき、自宅に帰ってくるたびに、学校での出来事や友達の話、チェーンソー操作技術でこんな大会があったよと、楽しんでたくさん話を聞かせてくれました。  
この二年間は息子にとって、とても有意義で成長できた時間になったと思います。もうすぐ卒業を迎えます。多くの学びの機会を下さった森林組合の皆様、林大の先生方への感謝を忘れずに、今まで学んだ多くの知識と技術を、今後の仕事に生かして頑張っていきたいと思います。

息子が高校三年の秋、進路面談で担任の先生から「本当に林業大学校に進学するのですか？」と、何度も確認され



卒業にあたって  
那須 広行

大きな期待を持っていました。思いますが、林大に入学が決まった頃から、新型コロナウイルスという百年に一度の大

高校二年の頃から息子は進路に迷っていましたが、「林大へ行く。」と聞いた時、今までにない信念を感じ取り、親として応援しなければと思ったものです。

たことを覚えていきます。普通高校に通っており、今までの卒業生が選択したことのない進路に先生も不安があったのではないでしょう。

高く飛ぶための準備期間を与えられたのだ。」と、言って

また、生徒の皆さんもコロナによって様々に悩み、翻弄されたことでしょう。ある人が、「コロナ禍により世の中

混乱に巻き込まれ、世の中が一変しました。この二年間、林大の先生方、職員や関係者の皆様には並々ならぬ御苦労をなさったと思います。無事に卒業を迎えることができましたことに感謝申し上げます。

息子が高校生の時、進路について尋ねると自然が好きなのは、将来、林業関係か自然環境に関わる仕事に就けたらと希望を語っていました。そして林業大学校のことを知り進学を決めました。



卒業を  
間近にして  
沢田 浩志

林大の先生方、職員の方々、関係者の皆様、大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。卒業後、彼は社会人となりますが、これまでお世話になった方々への感謝を忘れず、この林大で学

林大では、コロナ禍にもかかわらず、慎重な感染対策のもと、さまざまな実習や研修、インターンシップなどを体験させて下さいました。日々の生活のことも含め、いろいろと貴重な勉強を林大でさせて頂いたと思います。

林大では、コロナ禍にもかかわらず、慎重な感染対策のもと、さまざまな実習や研修、インターンシップなどを体験させて下さいました。



2学年 1月 森林資源活用コース(素材生産)

んだことを糧にこれからの人生を歩んで行ってほしいと思います。

いましたが、この二年間は、決して無駄ではなく、より成長するための期間であったと考えれば、前向きに生きていきます。寮生活の中では、色々な意見の対立や問題も起こったと思いますが、林大の仲間とは、一生つき合える友であり、過ごした二年間は、これからの人生の中でも濃い期間であったと思えば返す時がくるでしょう。

### 貴重な時間

牧 咲子



小さい頃から祖父や父親と炭焼き工場についていき、一緒に重機に乗り木を扱う仕事場を見ていた息子は、いつの間にか家業への思いを持ちながら生活している様でした。高校で進路を考え始めた時、木曾に林大があると知り、縁あって進学することができました。

卒業生は、これから社会という荒波の中に入っていくと思いますが、仲間という絆を大事に、社会に採られることなく、林大で過ごされた二年を自信に、乗り越えてほしいと願っています。

自分らしく前向きに!!

家を出ての寮生活、林業についての勉強もすべて初めてのことで期待と不安の中で、日々を送っていたのかなと思います。時には自分は周りの仲間より林大への熱意が少ない、このままでいいのかと悩んだこともありました。

そのような中、良き先輩、仲間、後輩達に恵まれ、熱心な指導や温かく見守ってくださった先生方に出会いもうすぐ卒業を迎えようとしていきます。不安が少しずつ自信になり、息子にとって一生忘れられない貴重な時間になったと感じます。林大での経験を生かし、色々なことに挑戦し、自分の道を進んでいってほしいと思います。二年間ありがとうございました。

### 感謝しながら

一歩一歩  
渡邊 恵理子



「植わっている木の種類で緑の濃さが違うな」  
緊急事態宣言の中で始まった新学期を終え、家に向かう道中での娘のつぶやきは、そ

れまで私にとって漠然と緑色の塊でしかなかった山が、人によって手入れされた一本一本の樹木が存在する場所であると認識された瞬間になりました。

林業のことは何もわからない私共ですが、全寮制で親元を離れて暮らす苦労も含めて、林大でのすべてが、娘にとって必要な経験であったと思っております。

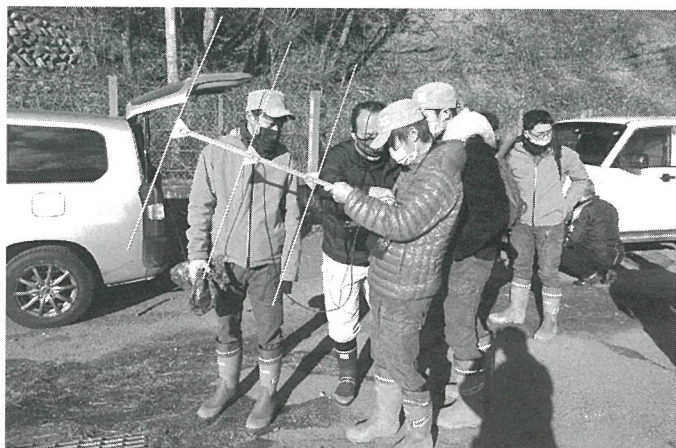
春から見知らぬ土地で新たな世界に飛び込む娘は、きっと今、期待と不安でいっぱいでしょう。それでも自分の選

んだ道を迷いなく歩き出そうとしている姿を見ると、眩しいような誇らしいような気持ちになります。

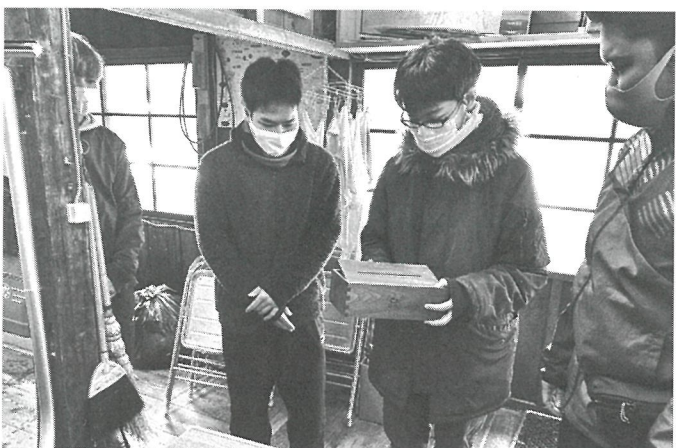
これからも多くの方に支えられていることに感謝しながら、一歩一歩進んでいってほしいと願っております。

最後に、コロナ感染防止対策をしつつ、全カリキュラムを実施することは並々ならぬことであったと存じます。

すべての関係者の方々に心より御礼申し上げます。



2学年 1月 森林管理コース  
(野生鳥獣被害対策実習)



2学年 1月 木材利用コース (木の文化論)

### 新たな旅立ちに向けて



卒業生 (第二期) 志水 良一

新しい職場や学び舎に旅立つ皆さん、それぞれの胸の中にある夢や目標が実現し、充実した日々が送れるよう祈念しています。  
私は本年三月で長野県職員を定年退職します。人生の一区切りとして、皆さんと同じように新たな道を歩む年となります。

### 七転八起・初心を忘れないで



二学年担任 小牧 成美

私が、当校を卒業して早いもので、二十七年が経とうとしています。林大に勤務し、はるか昔、自分は林大に何故入ろうと思ったのか、何を学びたかったのか、そんな原点

ります。

今から四十二年ほど前、木曾福島町出身の私は両親と離れ初めての寮生活がスタートしました。洗濯のやり方もろくに分からず、同窓生に洗剤はどのタイミングで洗濯機に入れるのかなどと聞いたくらいでした。高校の普通科からの入学したので、山での作業や測量実習などでは触れたこともない機器に戸惑ったもんです。それが、現場での実習を主体としたカリキュラムと寮の厳しい規律に二年耐え、就職試験を経て現在に至る職務を全うすることが出来まし

## 檜のアドバイス

た。新たなスタートダッシュの時に、林業大学校で学んだことが足場になるのは間違いないありません。

ただ、あくまでも基礎としてであり、いざ公共事業の測量などに臨むと求められるのは正確さとスピード。先輩や上司の指示に必死で取り組む日々が続きました。  
まず一つ皆さんにお伝えしたいのは、就職や進学で接する先輩方と皆さんとは経験値に絶対的な違いがあるということ。そして新しい職場等で接する皆さんへの「畏敬の念」を忘れてはいけません。

ん。敬意を払い素直に精一杯取り組んでいけば、必ず誰かがその姿をみていていざという時に力になってもらえます。

四十年近くの社会勉強から学んだノウハウとして、上司が嫌う部下のタイプを記します。裏を返せばこのような点に気をつけようという秘訣になります。①上司に相談せず業務を進める。②業務全体のスケジュールを考えず先送りにする。③立場の弱い相手の話を聞かず高圧的に接する。④出勤、退庁時にあいさつしない。遅刻の理由を言わない。⑤業務の成果で先輩を立てず自分だけの手柄の

を振り返る良い機会となりました。当時、林大での授業はとて新鮮だったことは言うまでもありません。専門的な用語に戸惑いもありましたが、実習が多いカリキュラムは、野外が好きな私にとって最高の時間でした。寮生活は良くも悪くも貴重な経験をさせてもらいました。現在、二学年の担任をしています。先生という立場で学生と一緒に過ごす時間はとても尊いも

のです。毎日顔を合わせ、体調を心配して声をかける生活が始まりました。昔の話はしなないと決めた矢先に、学生間のトラブルが勃発し、厳しく叱ることもありました。「昔はこんなことなかったわ。」と言ってしまう始末。一方で学生の抱える悩みも多く、自分で解決すること、七転八起しながら努力していくことが大切だと思いい守ってきました。

私は、学生時代に『林業従事者を増やすことが大切だと思う。若い人たちが関心を持ち、林業に興味を持つてもらえることをしていきたい。』と林大だよりに記しています。初心を思い返し、果たして、今はどうだろうか、林大に入学してきた若者に林業に関心を持ってもらえているのだろうか、そんな自問自答を繰り返しています。そんな中、ひたすら真剣に取り組む学生の姿を見て、私も挑戦する勇気もらいま

ように振る舞う。以上の点を中心に留めておくとおかないがでは長い人生で大きな違いが出てくると思います。

終わりにもう一つ、私は平成二十八年六月に両親を相次いで亡くしました。遺品を整理していたところ、初任給で父親に買ったライターと母親に買った花瓶が奥にあるのを見つけました。大切にしまわれていたのを見て涙が止まりませんでした。林業大学校を卒業して新たな道に進むことが出来るのは、ご両親などのお力があることを忘れてはいけません。周りの方々への感謝の気持ちをもち頑張り続けてください。応援しています。

した。人材育成の難しさも感じていますが、林業を支えていく若い世代に知識と技術を引き継げるかが重要なことだと思っています。そして、今後も林業を学びたいと言う若者がいる限り『人財』を育てる場所が、この長野林大だと確信しています。  
四十二期のみなさん、春から社会人生活が始まります。初心忘るべからず。支えてくれる人への感謝の気持ちを持って過ごしましょう。これからも応援しています。頑張り四十二期!

## 学生の活動報告

昨年度より少しは対外的な活動が行えるようになったとはいえ、まだまだ林大生の「フルパワー」を発揮できる状況にはなりません。長野県林大生の「凄さ」を発揮できた1年間でした。ここに記載した内容は学生たちの活躍のほんの一部ですが、これからも地元へ貢献し、大切にされる林大生であってほしいと願います。

### 日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取 総合優勝！



右側：2学年 梅本倫仁 ビギナークラス総合優勝  
左側：2学年 横澤 諒 ビギナークラス伐倒1位  
お見事。伐倒チーム2名が頑張りました。  
練習を重ねた成果が発揮された大会でした。

### 地元行事に参加



昨年は新型コロナウイルス感染症流行のため開催されなかった木曽町駅伝大会に参加しました。  
1・2年合同チームで参加し、木曽路を走り抜きました。

### 2 学年（三林大伐木選手権）



昨年度は開催されなかった三林大（長野・京都・岐阜）伐木選手権で日頃の成果を競い合いました。  
コロナ禍で交流の場が減っていますが、林業を志す者同士の熱いトークも繰り広げられました。

### 1 学年（おうたき保育園のベンチ修繕）



老朽化で腐食していた王滝村「おうたき保育園」のベンチを1年生が建築端材を活用して修復。園児たちからも大きな笑顔がこぼれました。